

「阿蘇ふるさとづくり自然塾③」事業報告書

事業推進室長 小宮広明

1 事業の概要

- (1) 趣 旨 子供たちに共同生活の機会を与え、日常的な生活体験を自分たちの力で行うことによって、子供たちの自主性や社会性、他人と協力して生きていく力を育てる。また、集団での規則正しい生活を通して、基本的な生活習慣を身につけさせるとともに、自学力の向上を図る。
- (2) 期 日 平成30年3月13日(火)～3月16日(金) 【3泊4日】
- (3) 活動場所 国立阿蘇青少年交流の家
- (4) 参加者 一の宮中学校1・2年生 12名(1年生:4名、2年生:8名)
- (5) 担当職員 小宮広明(事業推進室長) 安部信吾(企画指導専門職) 三枝ひとみ(企画指導専門職)
山下正晃(企画指導専門職) 松元延行(事業推進係長)
- (6) 内 容 【1日目】開会式・テニス練習・学習
【2～3日目】テニス練習・学習・洗濯
【4日目】テニス練習、閉会式

2 成果と課題

(1) 成 果

- 「普段は分からないチームメイトのことなどがよく知れました。また、集団生活のきまりや楽しみ方なども知れる良い機会になりました。」「ぼくは、家に帰ったらダラダラしたり、ポーッとしたりと1日を充実させない日々を送ってきたので、今回のパソコンもゲームもできない生活がとてもよい経験になりました。」などの参加者の感想があった。集団での宿泊体験を通して同じ部活動で頑張るなかまの良さに気づいたり、自分のこれからの生活習慣を見直したりするよい機会になったことが伺えた。
- プログラム作成時に顧問の先生との打ち合わせを行った。「チームとしてのまとまりを強化したい。」「部活動だけでなく、毎日学習する習慣を身につけさせたい。」などの願いを踏まえ、部活動の時間の確保だけでなく、毎日、自主学習時間を設定した。部活動だけでなく学習面でも集中して取り組む姿が見られ、学習においても習慣の大切さを感じさせることができた。

(2) 課 題

- 部活動単位での参加ということもあり、スポーツ活動中心のプログラムになってしまった。今後、協調性やコミュニケーション力、また、自己肯定感を高めるような体験活動プログラムを提案し計画することで、本交流の家で通学合宿をする価値を高められるのではないかと考える。

3 事業の様子



テニス練習の様子①



テニス練習の様子①



食事の様子①



食事の様子②



夜の学習の様子



集団での登校の様子



清掃活動の様子



閉会式での生徒代表のあいさつの様子